

真の友情 歩けない友だちを6年間背負い続けた12歳少年

病気で歩けない友だちを6年間、背負って校内を移動していた12歳の少年が、「真の友情だ」と話題になっている。

中国の新華社通信（3/19）などによると、四川省眉山市の小学校に通う6年生の張沢君（12＝仮名）は4歳の時、「重症筋無力症」と診断された。筋肉の力が弱くなる治療不可能な病気で、歩くことができなくなった。そんな張君を救ったのが、小学校1年生の時に同じクラスになった徐彬洋君（12）だ。張君は学校までは両親に車で連れて行ってもらうが、校内でのクラス間の移動や、トイレ、食事などはすべて、徐君が張君を背負って行っていた。短期間なら、できる人も



いるかもしれないが、徐君はこれを6年間、晴れても曇っても、1日も欠かさなかったのだ。

メディアの取材に、シャイな徐君は恥ずかしそうにこう語った。「僕は張君より大きいですから。僕がやらなければ、誰も張君を助けないと思ったんです。僕の体重は40キロ以上、張君は25キロくらいです。だから張君を背負うのは全然問題がないんです。」徐君は張君に恩着せがましい態度を見せたり、言ったりしたことは一度もない。クラスメートに「みんなも手伝ってよ。」と言ったこともない。それどころか、2年前まで母親すら、張君の無償の行為を知らなかったというから驚きだ。「息子は、学校でクラスメートを助けていることを一言も話さなかったんです。2年前に、別の生徒の親からそのことを聞いて、驚きました。内気な子なんです。でも子供のころから宿題は一生懸命やっていたし、私が農作業をしていると、走って手伝いに来ました。」

張君はメディアの取材に、徐君への感謝の気持ちをこう語った。「6年間、僕を背負ってくれてありがとうございます。徐君は僕の親友です。毎日一緒にいて、勉強し、おしゃべりし、遊びました。毎日僕の面倒を見てくれて本当に感謝しています。」

それにしても小学生になぜ、こんな長年にわたる無償の行為ができたのだろうか？メディアの質問に徐君は、「子供の頃に読んだ雷鋒の伝記の影響です。心の中でずっと憧れていました。」と答えた。雷鋒（1940～1962年）は中国人民解放軍における伝説の模範兵士の1人。子供のころから児童団や少年先鋒隊に入って活動し、中国各地の農場や工場で作業するなどの奉仕活動を続けた。しかし、1962年8月15日、電柱を輸送中のトラックを立て直す作業中、頭を強く打ち殉職。毛沢東時代に「無私の象徴」として偶像にまつり上げられ、今も3月5日は「雷鋒に学ぶ日」と定められ、全国的にボランティア活動が行われている。地元メディア「四川在銭」の文銘権記者は、記事の最後に次のように書いている。「長年、『雷鋒に学ぶ』なんて3月になると出てくるただのスローガンさ、と思ってきた。まさか12歳の少年が雷鋒を理想とし、雷鋒から学んだことを黙って実践しているとは、思ってもみなかった。」